○１番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可を得ましたので、これより私、上田雄一の一般質問をさせていただきます。

今回、私は武雄市の今後の可能性についてという項目を上げさせていただいております。今後の可能性といいましても、いろいろなことがあるのではないかと思います。前向きなプラスに発展する可能性、これはもちろんですけれども、後ろ向きなマイナスに発展する可能性、これもあると思います。今回、そのさまざまな可能性について、武雄市の今後の可能性について質問させていただきます。

それではまず、第１点目です。今、市民の皆様の最も注目の高い市民病院についてであります。市民病院について、今後の医療環境の可能性であります。

本日、一般質問の３日目ということもあり、これまで数多くの先輩諸氏が質問されておりますので、重複する面もあるかと思いますけど、できるだけ避けるつもりではおります。万が一重複した際は、非常に気が弱い私でありますので、優しく、わかりやすい答弁をお願いしたいと思います。

それでは、質問に入りたいと思います。

先ほども申し上げましたように、武雄市民病院の話題が持ち切りであるわけですけど、我々若い世代においても例外ではありません。「市民病院はどがんなるとですか。早うどがんかしてください」という声が多々あります。まずもって、今回の市民病院の民間移譲について、賛成の声、また反対の声を、電話やメールも含めて、私のほうに多数お寄せいただき、まことにありがとうございます。

賛成の声は後ほど御紹介するとして、反対の声には「市民病院つぶしに加担するのですか」というものなど、まるで――――〔発　言　取　り　消　し〕――――匿名の伝言や連絡先のわからないようなものまでありましたので、こちらから連絡できなかった方に対しては、まことに申しわけございません。

御存じのように、さきの５月臨時議会では、「武雄市立武雄市民病院の移譲に伴う特別措置に関する条例」が可決されました。それに呼応するように、先日の８日には市民病院を存続させる会結成集会が行われたようであります。十人十色といいますか、皆さん10人いれば10人の考えがあるわけで、すべての方が同じ考えでないというのは常でありますし、これはいいことでもあると思います。市民病院を公立病院として存続させたい、その気持ちはわかりますし、もちろん私であっても、公立として今の運営形態で医師の先生方も充足し、救急医療などできて、順調な運営ができるのであれば、そうしてほしいと、そうするべきだと思っております。しかし、８年前に経営を引き継いだ市民病院、国での運営が厳しいものだったにもかかわらず、現実問題、今、およそ５万人の人口規模で自治体病院を維持していくのも極めて難しいものであるというのは前もって申し添えたいのですが、これについては、市

民病院の病院長を初め、スタッフの皆様の献身的な御努力でこれまで運営されてきており、今日があるのも、その努力のたまものと感じているところであります。

さて、その病院問題ですが、先日もブログを通じて関東の市議の方より連絡がありました。そこも民間移譲を考えているということでありました。そこも市内唯一の公立病院であるが、全く反対運動はないので、武雄市の現状を教えてくださいというものでした。不肖私も市民病院問題調査特別委員会の委員でもありましたので、頭は悪いですが、一生懸命市民病院について勉強してきた一人であります。

ここで断っておきたいんですけど、今、結論ありきで議論が進んできているのが問題だと言われている方もいらっしゃるかと思います。しかし、少なくともこの委員会の15名は、問題を調査していく上で、基本スタンスは公正中立な立場で議論していくという委員長のスタンスに同意したものであり、結論ありきの委員会ではなかったことを申し添えておきたいと思います。

これについては、新臨床研修医制度や診療報酬のマイナス改定など、さまざまな国の施策による責任も大きいものであるということも思っています。医療関係者の方々などとも私なりにお話しもさせていただきましたし、メールでのやりとりなどもさせていただきました。先日行われました存続させる会、150名程度と伺っておりましたけど、10日の新聞発表では300名ということもあり……（発言する者あり）私が聞いていた話です。その中の方々、そういう立場の方々ともお話しさせていただいております。

そういう中で、私が聞いてなかなか得られなかったのが、仮に民間移譲を考えなければ、どのようにして市民病院を立て直すかであります。医師会の皆様を含む市民の皆様が存続を訴えられるのはもっともだと思いますし、必要なことだと先ほども申し上げました。10人いれば10人の考えがあるわけですから。しかし、我々議員にしてみれば、反対、この場合は市民病院をそのままの経営形態で存続させることを訴えられているのであれば、それはそれで明確に持続可能な運営方法を、中でも医師招聘について明確な方法を提示していただき、それをもって反対してもらいたいものであります。

残念ながら、私の聞き及んだ中には、なかなか明確な案、アイデアをいただけませんでした。数々の皆様と武雄市の医療環境をどうすればいいかということについて意見交換をさせていただく際に最終的に行き着くところには、こういう状況になったのはだれの責任か、ここまでのプロセスが悪いということになり、なかなか具体的な道筋には至りませんでした。

ここで、ある市民の方とのお話を御紹介させていただきます。

高齢者世帯の方なんですが、目に涙をためて、私の手を握り締めたまま話していただいたんですけど、「上田さん、あんたたち若かもんが頑張ってくれんばいかん。市民病院ば早うどがんかして。あんたたちは若うして元気かけん、ちょっとぐらいぐあいの悪かっても、さって車ば運転していったりできるやろうけど、私たちはそれができん。あんたたちやったら

我慢して、あした行こうてもできるやろうばってん、私たちはそれが命とりになる。救急医療なら嬉野とか白石とかに行きんしゃいて言うばってん、タクシーでは物すごくお金のかかるし、救急車は近所に、私はもう長くないですよと宣伝しよるごとして呼び切らん。公立でん民間でん、そがんとどがんでんよかけん、早う市民病院ばどがんかして。頑張ってよ」ということでした。また、ある方との話の中では、「市民病院として公立病院があるのにこしたことはない。なかばってん、お医者さんの足らんやったり、赤字やったり、いろいろあるけん問題提起しよるとやろう。おいたちでは市民病院でがたがたしよる本当の中身はわからんし、勉強不足て言われるかもわからんけど、その勉強もするつもりはなか。そこはあんたたち政治の世界の話やろう。おいたち市民のことばいろいろ考えて苦労してもらいよるとやっけん、しっかり頼んどくばい」というように言われた方もいらっしゃるほどです。多数の方がこういう感じではないのかなとさえ感じる次第です。

今回、この病院の民間移譲について、議論の中心的存在であるものの中に、市民の方のブログがあると思っております。もちろん個人のブログですので、基本的には個人の意見ですが、医師会としての立場もあられる関係で、御意見には非常に重く受けとめなければならない内容というのも多々あるわけです。

そこで、今ある政党が中心になり、存続運動の街宣車が回っているほどですが……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

続けていいです。

○１番（上田雄一君）（続）

中心になり、存続運動の街宣車が回っているほどですが、そこに私なりに幾つかの疑問点があります。そこについて、まずはっきりさせていきたいと思います。

まず、街宣車で市民の財産を守る、つまり市民病院をそのままの形態で残すという運動を行われている武雄市民病院を存続させる会の皆様、それと民間移譲そのものに反対ではないという医師会の皆様です。医師会の皆様は、これまでの市長がとったプロセスに難色を示されているのであって、民間移譲自体に反対ではないというように私は認識をしております。これについて、市長の見解をお聞かせ願いたいと思います。

それとあわせて、けさの新聞ですね、公立病院再編検討会という記事が載っております。その中で、武雄市が市民病院の民間移譲の方針を示した問題について、一部の委員から、民間病院が地域のことを考えて医療をするか不安があるなどの意見があり、市民や医療従事者の声を十分聞かずに不明瞭な決定がなされようとしていることを遺憾に思うという記事も載っておりますが、これについての見解もあわせてお聞かせ願いたいと思います。

〔28番「議長、議事進行」〕

○議長（杉原豊喜君）

28番富永議員

○28番（富永起雄君）

今の上田議員の発言の中で、最初のほうですよね。市長が民間に、ということをやって、私たちはそのほうからなってきましたけど、そのブログに「-[発言取消]-」ということをはっきり言われたですよね、「-[発言取消]-」と。市長がそんな-[発言取消]-とかなんかでないですよね、はっきり言って。市民のこと考えてなっておると思いますよね。その辺の発言をまず取り消してもらいたいですよね。市長がわざわざね。私もそこで、やり方が私はちょっとあれやったばってん、上田発言は「-[発言取消]-」とはっきり言いましたよ。ブログの中に「――[発言取消]――」と。そのようなことはちょっとね――いや、言うたですよ。

その「-[発言取消]-」ということがおかしいと。それをちょっと取り消してもらって、それから、150人と。８日の日かな。150人と言われて、それを300人と言われて、その150人は、あなたは来ていないですよね。私もちゃんと見ておりましたよ。だれから聞いたかわかりませんけどね。280人は完全に署名をしてもらっておるですよ。ということで、確かなことをやはり議会では言ったり、政党の悪口を言ったりする手はないですよ。その質問をちょっと議長のほうに整理を伺い、その「-[発言取消]-」ということの発言を取り消してもらいたいと思います。

〔29番「議長、議事進行について。重ねて議事進行〕

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）

えらい大人げない話ししよるなと思っておりますけれども、まず、上田議員がおっしゃったのは、「―[発言取消]―」というのは、市長がやっていることが-[発言取消]-となったんですね。

〔１番「そうじゃないです」〕

そう聞こえた。だから、市長がやっていることは-[発言取消]-じゃないんだよという言い方ですから、今。わかりますか。市長が民営化をやっていることが-[発言取消]-じゃないかと、それに加担しておるじゃないかと言われる、そういうこともありますと上田議員はおっしゃったんですよね。-[発言取消]-とは、やっぱり市長がしよることは-[発言取消]-じゃないから、それは取り消してほしいと。

それとまた、150人、300人、私は行っていないけん、わからんです。しかし、上田議員が見て聞いて言いよるとは、まだ１期目というのは言い方悪いですけどね、それぞれの立場で、何というですか、一般質問の中でしょう。お互い自分の意見を言い合うところですので、そこは見てやって、数えてもおらんと思うですよ。それはやっぱり大所高所に見てやっていいんじゃないですか。

-[発言取消]-というのは、そういう意味ですよ。上田議員、それは取り消したがいいと思いますね。

それと人数とか、そういううわさを聞くとか、そういう話はやっぱりしますよね。皆さんだって、もっとひどくしよるですよ。そこはぜひ大目に見てやっていただきたいという議事

進行でございます。

○議長（杉原豊喜君）

暫時休憩をいたします。

休　　憩　　11時12分

再　　開　　11時18分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

ただいまの議事進行に対して、１番上田議員から発言訂正の申し出があっておりますので、これを許可いたしたいと思います。１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

まず、私の「――〔発　言　取　り　消　し〕――」というようなところは、ちょっと表現に適切でなかったところがありますので、そこは削除させていただきたいと思います。

それと人数に関してですけど、ちょっといろいろ話を聞いた中で、ミーティングホールで150人ぐらいやったよというふうに私は聞いておったとですけど、翌朝の新聞を見て、300名来ておったと。わあ、こがんよんにゅう来ておんさったとねというような感じで私は御紹介したまでありまして、そこら辺は取り計らいよろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

執行部の答弁を求めます。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御質問は２つあったかと思います。

まず、私どもから見て、医師会の立場ということなんですけど、ちょっとすみません、私は医師会のメンバーでもありませんので、あくまでも執行部から見た医師会の立場を申し上げたいと思います。

基本的に医師会の見解は、医師会長がおっしゃることだと思いますけれども、この件に関して言いますと、ある医師会のメンバーの方がブログで書かれていることも引用しながらお話しすると、民営化には反対ないと。しかし、そのプロセスに疑義があるといったことをおっしゃっているというのは、これは一緒であります。その上で、私なりに解釈をいたしますと、医師会の目指すべき医療の中身と私どもが本当に供給をしたい、受け取っていただきたい医療の中身というのは一緒だというふうに思って、だから、到達点は一緒だと思うんですね。ですが、到達するべきの道の段取りが違うということでありますし、ただ、私がきのうも申し上げましたけれども、医師会のメンバーが、これは医師会の総意でありますけれども、今度新しく病院が決まったときに三者協議会に入っていくといったこと。それともう１つ、私が非常にうれしかったのは、ぜひ公開シンポジウムをしたいというのは医師会から内々私のほうに入ってきて、これは私もいろんなところで申し上げておりますけれども、そういっ

たことが私に来るという時点では、私は医師会の見識を高く評価をしたいというふうには思っております。

いずれにしても、医師会と私どもに溝があると。これはいろんな新聞にも書いていただいておりますけれども、溝ができると一番損するのは市民であります。その溝を埋め合わせるために、私自身が先頭に立って、その関係修復に努めていきたいというふうに思っております。

そして、県の医療審議会の見解でありますけれども、私も直接聞いたわけではありませんけれども、私はさまざまな意見があっていいと思うんです。委員の方から心配して電話も二、三本いただきました。やっぱり武雄の市民医療の件に関して言われた、出来レースとも言われたということで、賛成、反対の方から私のところに電話も賜りました。でも、私はやっぱり思うんです。

こういうふうにいろんな意見があって、それに傾ける耳をきちんと持たなければいけないと、私自身はそういうふうに思っておりますので、これについてどうこうするコメントは特に持ち合わせておりませんが、ただ１つ申し上げたいのは、知事がさきの会見でもお話をされたとおり、今回の武雄市民病院の問題というのは、基本的に経営権だけ考えた場合には、それは武雄の問題であるということを冒頭にお話をされております。非公式にも県の医師会長も、私が承る限りでは、これは県の医師会とは違うと、武雄の問題であるということを私にも明言をされておりますので、これは地方分権の今の世の中の流れ、あるいは地方自立を求める全体の世論の流れからすると、私はそこに一定の発言の幅があっていいと思いますけれども、繰り返しになりますけれども、いろんなさまざまな意見が寄せられていること自体は私は幸せだと思っておりますし、県の医療審議会の皆さんたちが思っておられる今回の医療について、私もこれは目指すべき道は一緒だろうというふうに思っておりますので、そういった意味で、さまざまな議論の展開をさせていただければありがたいなと。そして、聞く耳は十分に持たなければいけないというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

最初にトラブル発生で、ちょっと今の答弁を聞いていて、今度どういう質問をしたらいいのか、なかなかちょっとパニックになっております。

それでは、医師会の皆様の御意見の中に――医師会の皆様の御意見というか、ブログに関してというか、いろいろ聞いた話の中でも、救急医療は嬉野医療センターで間に合っているという話があり、市長も認識されていることだとは思います。きのうの質問、答弁の中にもありましたので。これについては、佐賀県の南部医療圏、広域圏での考え方があると思います。広域医療圏で考えて、例えば、嬉野や県立病院への搬送なんかでも連携と言われており

ますけど、先ほど御紹介した方もそうですけど、例えば、お見舞いの方なんかも、車を持たない高齢者の方がそういった病院へ面会やお見舞いに行けるのかと、やっぱりなかなか簡単に行けんなというような気がするわけですよね。

これまで聞いた話の中でも、市民病院で市民の皆様の半数以上が亡くなっておられるので、必要だという意見もあります。そうすると、採算が見込める高次医療は嬉野やほかの病院へというようなことで、例えば、採算が見込みにくい療養部分というのが市民病院で行うことになるのかなと。言葉は悪いかもしれませんが、市民の皆さんも、私が考えるには、好きこのんで最期は公立病院でという感じを抱かれているのかなと。そうは思わないのが私なんですよね。できるなら長年住み育った自宅でという気持ちはもちろんあると思うんですけど、それが無理ならば、病院だったら、公立だろうが、民間だろうが関係ないんじゃなかかなというのが自然だと思いますけど、これについては、市長どう思いますか、見解をお聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは非常に難しい課題、問題だと思います。厚生労働省も県も、そして私どもも、実は本当に率直なことを言わせてもらえば悩んでおります。と申し上げますのも、厚生労働省は基本的な方針として、命の最期を迎えるときは畳の上でということを言っているんですけど、じゃ、それが地域医療で支えられるかどうか、あるいは今の核家族化が進んで、あるいは世帯そのものが高齢化して、それが支えられるかどうかについては、それはなかなか厚生労働省が言う方向と実際の実態がちょっとずれているということは、これは今の客観的な事実だというふうには思っておるんです。

その上で、私たちが考えなければいけないのは、そういう終末医療のあり方を考えたときに、２つ考えなきゃいけないと思います。これは私なりの言葉で申し上げますと、まず、終末医療と、終末をどう過ごすかと。これが今、恐らく厚生労働省も私どもも多分混乱していると思うんですね。だから、終末医療を担うことに関していうと、やっぱり医療ということでありますので、それは私は病院がきちんと担うべきだと。しかし、最期の本当に大切な時間を病院で過ごすといったことが本人、あるいは御家族の皆さんにとって本当にそれがいいことなのかどうかについては、それはまた別の議論があるというふうに思っております。

今、さまざまな医療界、あるいは福祉界の議論を今回の質問に備えて勉強しました。その部分がどうしても私には納得というか、得心ができずに、私自身がいろいろ考えて、１つの意見としてちょっと今申し上げているんですけれども、そういった形でいうと、終末をどういうふうに支えるかを申し上げますと、病院、これは民間、公立あると思います。それと、例えば、老人保健施設とか介護施設とか、あるいはこれは自宅も入ろうかと思います。そう

いった意味で、オール福祉、医療、あるいは介護で最期をきちんと支え合うといったことがもう１つ考えられるべき話なのかなというふうに私は思っています。

だからこそ、ある１つの特定のところに、これは今、武雄市民病院というお名前も出ますけれども、１つのところで解決できるような問題ではなくして、社会のある意味のセーフティーネットとして全体をもう一回考えてしかるべきだと。そういったことも今回のビジョンにも載せておりますし、そういった病院がまず選ばれ、そして最終的には、これは結果的になりますけれども、三者の協議会でしっかり話し合っていくべき話なのかなというふうに今思っている次第でございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどまで、きのうまでの答弁の中も、公開説明会といいますか、市民プレゼンですかね、そういった答弁をいただいておるわけですけれども、それについて、どういう趣旨でどがんふうな形で行われるのか。これは相手がある話ですから答えにくいかもわかりませんけど、よろしければ公開説明会なり、公開討論会なり、プレゼンなり、具体的なイメージをもうちょっとお聞かせ願えたらなと思いますけど。御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

基本的な細目は選考委員会が決定しますので、それはちょっと前提にお聞き願いたいんですけれども、私はこういうふうに思っております。まず、市民の知らないところで密室で決めてはならないというふうに思っているんです。その上で、私はさはさりながら、これについては、きょうもあるテレビ局から審議会を公開しなさいと、公開すべきではないかという意見が寄せられています。これに対しては私も取材に応じましたけれども、それは私は違うと思うんですね。あくまでも選定というのは公正中立の立場から、選考委員が自分のみずからの良心に従って決めるべき話であって、それを全部公開にしてしまうと、やっぱりさまざまな圧力がかかってくると思うんです。そういった意味で、私は前も答弁をいたしましたとおり、特定の人、あるいは特定の団体からの意見を排除するために選考委員会を非公開にしたいというふうに思っているんです。ただ、それも委員会が公開をしたいということであれば、それはまた話は別です。しかし、私の思いからすれば、それはやっぱり非公開が望ましい話だろうというふうに思っているんです。

ただ、それは一回一回、ブラックボックスはだめだというふうに申し上げておりますので、そういう意味で、委員会が終わった後にはきちんとブリーフィングをするべき話だろうと。どういう資料を配って、どういう議論があってというのは、それはきちんと出すべき話だろ

うというふうに思っております。その上で、最終結果についても、これは相手の、実際経営をされている病院なんですね。だから、どっちか優劣をつけるということになると、本当にこれが病院経営を直撃する可能性もございます。したがって、それは一定の制約はあろうかと思いますけど、私の希望とすれば、それは出せる範囲で最大限、選考結果も私は出すべきだというふうに考えております。

その上で、私はそういう選考委員会の、物すごく今、市民の皆様方からも注目を集めておりますので、実際生の声を聞いてほしいと。生のこういう医療を担うんだと、あるいは本当にこういった医療ができるんだろうかといったことを見て、そして、そこで質問もしていただきたいというふうに思います。ここで具体的に申し上げますと、私の希望とすれば、A病院、B病院がまずくじをして、順番を中立に決めると。その上で、A病院が先だということであって、例えば、１時間ぐらいのプレゼンがあると。40分から１時間のプレゼンがあって、そこに質疑時間が20分か30分ぐらいあると。それが終わってから、また次はB病院があって、そこにまた質問があるというような形態をぜひ考えていきたい。これはかなり多くの皆さんがお越しいただくと思いますし、ぜひお越しいただきたいというふうに思っております。そういう意味で、時間も同一、そして質疑時間も同一にしながら、順番だけはきちんと公正中立に決めて、市民の皆さんたちに直接訴えかけてほしいと。それともう１つが、御質問があれば、そこできちんと当該病院は答えてほしいというふうに思っております。

ぜひこれはテレビ中継もしていただきたいとも思っておりますし、そういった意味では、本当に生の声が届くと。そういったことが、今、出来レースとか、さまざま県の医療審議会でも言われていますけれども、そういったことを思っていただかない、排除するために、今回の市民のプレゼンテーション、あるいは選考委員会をこういうふうに設けているということはぜひ御理解を賜りたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ早い段階でそういった説明会なり開催してもらいたいものでございます。

今回の市民病院のことに関してもそうですけど、私も物事を考えるとき、常に両方の立場に立って考えるようには気をつけております。今回も賛成、反対、両方の意見を寄せていただいたわけですから、固定観念を持たずに、是は是、非は非というスタンスをとっているつもりです。今回も同様に市民の皆様の医療を守るということが我々の最優先のことでもあり、民間移譲を反対するなら反対しっ放しでは私は無責任だと思いましたので、どのようにして再生できるかというのも、頭は悪いなりにもいろいろ考えたわけですよ。

そういった中で、どうしても財政面のところにも関係してくるわけですね。公営企業であ

ることから全く切り離すことは不可能であるということで、ただ、今まで言われているのが、少々の赤字は市民の皆様の安心・安全の保証料として目をつぶることが必要じゃないかというような感じのことも言われておりましたので、私もそれもそうかなといろいろ考えたわけですよ。そいぎ、実際幾らまでの赤字なら許せるのかというのをどがんやろうかなと思って、いろんな人に聞いても、なかなかそれは難しかと。ある方の話を引用すると、人の命の値段までやろうかというような方もいらっしゃいました。人の命の値段て、そがん簡単にはわかるもんでもなくて、つけようがないような気もするんですけど、赤字の額等々はこれまでいろいろな方がされておりますので、割愛したいとは思いますけど、それ以外にも、やはり医師の招聘問題というのがクローズアップされるわけです。

市民病院も12名の先生がいらしたときには、赤字解消のためには、医師が最低でもあと２名から３名招聘できれば黒字に持っていけるかもという話もあっておりました。ちょっといつのときだったかわかりませんが、総務常任委員会のときに聞いた説明の中であったはずと記憶しております。そのときの説明の中でも、最低でも月２回以上は佐賀大学の各担当教授のところを訪問して頼み込んでいると。しかし、現実問題、自治体病院では民間病院にはかなわんというようなこともあったと思います。そのときも市民病院は開院当初から比べると医師が減ったのに、ある民間病院は同じ佐賀大学から派遣されているのに３名ふえているというようなものでした。医師さえ招聘できれば黒字になるのであれば、それにこしたことはないと。それ以来、どうすれば医師が招聘できるかを考えておりました。単純に私はそれ相当の給料を払えば来てくれるんじゃないかと思っておりまして、それこそ特別委員会で行きました先進地の視察のときに、そういう経緯があるということでしたので、聞いてみましたけど、そしたら、ごくまれに高い給料を払えば来てくれる医師がおりましたけど、激務や処遇の甘さからか、結局長続きしないという答弁でした。ただでさえ市民病院はころころ担当のお医者さんがかわってしまうという数多くの苦情が届いていたぐらいですから、それではやっぱり意味がないなと思うわけです。

そういったことから、医師確保、医師招聘、どっちが適当な言い方なのか。招聘だと思いますけど、医師招聘ができないというのであれば、どうしようもない、そこにやっぱりどうしても行き着いていったわけです。存続させる会の中にも、いろいろこうする、こうするというようなことが書いてありましたので、私も私なりに固定観念を持たずに見ていたんですけど、市長が市民病院を独立行政法人化や民間移譲の方針を撤回し、その上で佐賀大学病院との信頼関係を回復し、医師を確保するとありましたけど、それでできるんであれば、それでいいんじゃないかなという気もしたわけですよ。そいけん、そういう場合やったら、民間移譲を白紙撤回すれば、今後、例えば、何十年か医師を16名なり何名なりと必ず派遣するというような約束がとれれば、それならまだいいのかなと。ただ、でも、やっぱり今の全国的な医師不足、そういった問題の中で考えると、どうしてもそれじゃ不可能だというような感

じにしか私はとれなかったわけです。

そういう中、公的医療をどう民間病院として担保していく考えなのかというのは先日もいろいろ答弁がありましたので、割愛していきたいと思いますけれども……

〔23番「議事進行、23番」〕

○議長（杉原豊喜君）

23番議員、緊急を要するのであれば質問の途中もいいですけど、緊急を要しますか。

〔23番「じゃ、撤回します」〕

１番議員、質問を続けてください。

○１番（上田雄一君）（続）

すみません、トラブルが発生すると、それに対応する能力がありませんので、今、いっぱいいっぱいのところでやっておりますので、不適切なところがあるかもわかりませんが、御了承願いたいと思います。

現に市民の皆様を含む患者の方というのが病気やけがで病院に行く場合、どのように考えられるかなというのを自分なりに考えよったわけですよ。公的病院、公的医療機関やから市民病院に行くというのも、もちろんいらっしゃると思います。市民病院をかかりつけにされている方も多数いらっしゃると思いますので、そういう方は市民病院に行かれると思いますけど、市民病院をかかりつけにされていない方は公立、民間関係なく、かかりつけのふだん行かれる病院に行かれるはずなんですよね。そういった方の市民病院の利用の仕方というと、時間外診療ですかね、それとか救急で市民病院に行かれたのではないかなと思うわけですけど、市民の皆さんのいろんな話を聞いた中で、例えば、武雄から佐大の医学部に通いよるとか、嬉野医療センターに通いよるとか、共立に行かんばとか、武雄の人がよその病院に通うような話はよく耳にするんですよ。逆に、武雄市民病院によそから来ているというのはなかなか耳に入ってこないわけですけど、それもそのはずで、市民病院の利用者の18年度実績でいくと外来が２万3,500人、全体の84.2％と、ほとんどの利用者がやっぱり市民の方なのかなと。

今後、選考委員会にゆだねられる民間の移譲先では、市民の皆さんが本当に求めている、言い方を変えると、民間になったけど、よかったねと言えるような移譲先を選定していただきたいものであります。そのためには、これまでの市民病院が担ってきた医療以上のものが求められてくると思います。民間移譲が可決されたわけですから、前向きによりよい医療を提供いただくことを考えていきたいわけでございますが、そこで、ひとつ要望といいますか、民間の移譲先に、この場合、手を挙げていただいている２つの法人にお願いしてもらいたいのが、今、武雄市で最も要望の高い医療の一つである小児科であります。これまで武雄市民病院でも小児科の24時間、365日対応というのが求められている経緯もあります。そういった中で、なかなか小児科医という現状が厳しいのも承知しておる中で、できれば何も24時間、

365日全部の小児科対応をしてくれというわけではないんですよ。もちろん市内にも優秀な小児科医の開業医の皆さんがいらっしゃいますので、できれば今回の移譲先にぜひお願いしたいのが、市内にある民間の小児科の診療時間外、例えば、夜の９時から朝の９時までとか、そういった中で小児科を対応していただくようなことをぜひお願いしたいわけです。

私自身、４人の子を持つ親としても、子育て中の親、何より医療に密接に関係するのは小児科であります。うちの医療費もほとんどが小児科です。保育園や学校などで感染するかどうかわかりませんけど、夜になると、また夜中になると突然ぐあいが悪くなる子どもたちがいます。その子どもたちの中でも、どこが痛いとか、ここが痛いと言える子なら、まだ対処もできるんですけど、まだまだしゃべれないような小さい子だって、一様に40度前後の高熱を出したりするもんなんですよ。親ならば、何はさておき病院でお医者さんに診てもらいたいというのが常だと思います。コンビニ診療など、いろいろ言われておりますけど、これがコンビニ診療には入らないと思いますけどね、子どもたちが高熱で苦しがっている場合、翌朝、またきちんと診療に来るから、とにかく今苦しがっている子どもを何とかしてください、熱だけでも下げてやってくださいというのが親だと思うんですよ。

これはある方の話を紹介いたしますけど、救急医療を行っている当時の市民病院に高熱で苦しがっている子どもさんを連れていかれたそうです。しかし、残念ながら、「市民病院では10歳未満の患者さんは診察いたしません」という張り紙を張られて、相手にしてもらえなかったそうであります。ぜひそれを伝えてくれという御意見をいただきましたので、御紹介した次第ですけれども、もちろん今、武雄市内でも医師会センターなどでも対応していただいておりますけど、トータルで365日、24時間というわけにはいきません。それを医師会の先生方にお願いするとなると、その先生方は24時間診療ではなく、翌日、御自分の病院の診察もあるわけですから、33時間診療になるというわけで、市民の皆様のために市長はお願いにも行かれたそうです、救急医療を何とかしてくれということで。ただ、そういう状況になると、やはり簡単に「はい」とはいかない。ですから、今ある民間の診療所の皆さんと移譲先の民間病院と両方で子どもたちの医療を24時間対応できるようになれば、市民の皆さんの安心感はより一層だと考えるものであります。

小児科医が不足しているのも存じ上げておりますが、これについて、２つの法人も苦労されているようです。しかし、ぜひ武雄市として要望してほしい一つでありますけど、これについての考えをお聞かせ願えたらと思います。御答弁願います。

〔23番「議長、議事進行」〕

○議長（杉原豊喜君）

23番江原議員

○23番（江原一雄君）

聞き漏らすようでしたけれども、一言、非常に重要なことを発言されました。市民病院問

題に関して、存続することを主張することを無責任だとおっしゃいました。ここのところを言葉が適切かどうか、議長、精査していただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

今の議事進行につきましては、後ほど精査して、また御報告させていただきたいと思います。

〔27番「議長、議事進行」〕

27番髙木議員

○27番（髙木佐一郎君）

これは議長にぜひ議事進行上の整理を明確にお願いしたいというふうに思います。

近年、議事進行が非常に多いんですよね。内容的にいうと、個人的な感覚の受け取りの部分の問題が非常に多いと私は思っております。明らかに特定の個人を誹謗中傷するとか、いわゆる良識にもとるとかいうこと以外のことで議事をとめられるというのは非常に問題があるというふうに思うんですよ。それは発言者に対して大変失礼でもあるし、ルール以前の問題だというふうに思うんです。

受け取りの問題は、今、江原議員のほうから発言がありましたけれども、それはあくまでも個人の受け取りの感覚の部分でありまして、自分が思っていることを発言するというのは当然でありますので、そういう点で議事進行されるというのは非常に迷惑だというふうに思うんですよ。

ですから、議事にかかわる部分は議長に責任があるわけでありますので、また、その裁量があるわけでありますので、その点については、ぜひ議会議員全員で徹底をしていただきたいというふうに思います。これはある面では議会運営委員会を含めて、この辺を協議していただきたいというふうに思います。

これは要請であります。

〔29番「議事進行について」〕

○議長（杉原豊喜君）

29番黒岩議員

○29番（黒岩幸生君）

ここはまず質疑が３回ということから、私は最初は議事進行と言いましたね。しかし、非常に重要なこと、今、重なるかわかりませんけれども、私、気になることが、実は私も一般質問であったんですよね。いいですか。私は一生懸命主張をしました。主張してきて、最後にね、というのは、また繰り返したらいかんですけど、高浜病院の問題ですよ。前に話をした。しかし、それはそこの市長が名古屋市立大学ですか、医師が引き揚げたのは民営化を考えたから引き揚げたと平野議員が言われたときに、そのとき証拠を持っていませんでしたが、今度、証拠を言ったんですよね。言って終わり、それが違ったと言われれば、すべての一般

質問はパアになるんですよね。だから、今みたいに適宜言うてもろうたがいいかもわからん。だから、そこを深みは考えておかんぎ、途中だったら言えたんですよ。私が一般質問終わってから、実は私が言っていないよと言われたんです。市長が民営化を検討したからお医者さんが減ったと言われたから、私は調べてきて、違うんだよと話をしました。それは何日かかかったですよ。３月議会やったですかね、一回かかりました。そう言われたから、また言ったですね。そしたら、この前のときはわざわざ質問の中で言われましたからね。高浜病院はそうだと、また重ねて言われた。しかし、みんな聞いているのは、私がうそ言ったように聞こえるわけですよ。

だから、そういう高等テクになっていきますから、私はやっぱり今、上田議員が言っていることは、自分たちが発言される場所であるから、ある程度見てやりましょうということですから、そこは大きくやっぱりしていかなければ、これを手段に使っていけば大変なことになると思いますので、そこは重ねて言っておきます。

○議長（杉原豊喜君）

議事進行については、議長に取り計らいをお願いするというのが議事進行ですので、とにかく審議している議案等について、議事進行についてと。私が途中で討論を切るとか、質疑を打ち切るとか、それは議長の進め方がおかしいとか、そういうのが議事進行の申し入れでございます。また、私に取り計らいをとのことで、今いろんな議事進行をしております。それは当然なことだと思いますので、執行部に聞くとか、だれに聞くとかは議事進行ではできないとなっております。ですから、議事進行の中では、議員各位が十分に御理解をいただいて御発言をお願いしたいなと思っております。

次、執行部、答弁を求めます。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどの御要望は、深甚として胸にしみました。私自身が医療の素人であり、そして、今回の医療の問題をどういうふうにすれば市民の皆さんたちが本当に納得してくれるんだろうかといったことで、小児科に関して言うと、ある日本を代表するような大学病院の小児科の先生とたまたまお話をする機会があって、先生、どういうふうに小児科はこれからは向かうんでしょうかということを聞いた。だから、これが全部小児科のすべてのことかどうかは、ごめんなさい、私はわかりませんけれども、そのときに非常に私が納得したことを紹介させていただきたいというふうに思います。

小児科には２つ種類があると。１つは、先ほどおっしゃられたように、私のめいっ子もそうなんですけれども、夜中に突如不明の熱を出したりとか、嘔吐をしたりとかして、言葉にならないといって、そこで何らかの救急的に、急患的に対応しなければいけないというもの。それともう１つが慢性であります。これは小児がんも含めてそうなんですけれども、小児特有、あるいは極めて、失礼な言い方になるかもしれませんけれども、想定し得ないようなの

が小児の場合にはよくあるということで、市長、この２つを考えなきゃいけませんということを言われました。

じゃ、どうすればいいんですかというふうに聞いたときに、どうしても先ほど言った後者の、いわゆる慢性かもしれない、あるいは遺伝かもしれない、こういったものについては、本当にその専門の、例えば、福岡のこども病院がいろんな議論になりつつありますけれども、例えば、それは大学の病院であるとか、そういう本当の専門的な治療、ケアを施さなければいけない、これは精神面も含めてそうです。それともう１つの先ほどお話があったお子さんであるとか、私のめいっ子もそうなんですけれども、そういったときというのは救急医療の枠内でまず解決をしてほしいということ。したがって、私はちょっと知りませんでしたけれども、10歳未満のお子さんを市民病院がというのは、ちょっとすみません、それは私の勉強不足で知りませんでしたけれども、そういうのは私は救急医療として24時間、365日、これはぜひ行わなければいけないというふうに思うんですね。それは病気、急変するのは、子どもであっても、大人であっても同じだというふうに思っております。そういう意味で、議員御案内のとおり、小児科医もどんどん減っています。産婦人科とともに減っていますので、特に子どもたちの救急ですよね。言葉にならない救急であるとか救命であるというのは、きちんと私はそれは要望していこうと思っております。これを解決し得ない限り、本当に市民の皆さんたちが納得というか、喜んでいただけると思えませんので、それは最優先課題の一つとして要望をしてまいりたいと、このように考えております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

その小児科ですね、やっぱり私たちがぐあいの悪かった、熱が出たりなんたりしたときは、薬飲んで我慢して、あしたの朝、病院に行ってみろうかなというように我慢できるんですけど、やっぱり子どもたちにはあしたの朝まで我慢しなさいとはなかなか言えないところがあるもんで、今どうしても嬉野に行っているという、嬉野医療センターまで行かれているという話を物すごく多く聞くわけですので、ぜひその辺は要望していただきたいと。

その中でも、それ以外にも、もちろん武雄市の医療でちょっとまだ足りていないと言われるのが、例えば、人工透析であったりとか、そういったのもよく耳にするわけですので、今の武雄市民病院を民間移譲するのであれば、市民病院以上の、より以上の医療を提供していただけるように環境をつくるべきだと思うんですけど、その辺について御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

人工透析のお話が出ました。私が知る限りでも、人工透析は市内に２カ所の病院があるよ

うでして、それに行けない、それでも遠い、あるいはそこで満杯で、久留米であったり、あるいは長崎、佐世保であったり行かれているというのは耳にします。特に、合併になってから、その話はよく聞きます。したがいまして、これはぜひ、これだけ人工透析を必要だとされている方々も多うございます。そういった意味で、市民病院には今そういう機能がございませんので、それはぜひあってしかるべきだというふうに私は思っております。

その上で、私がこれも勉強になったのは、人工透析がないところでは基本的な重篤の患者の手術ができないということを聞いた。人工透析と何が関係あるのかなというふうに思ったところ、例えば、心臓であるとか、あるいは脳であるとか、あるいは動脈、頸動脈もそうですけれども、そういった手術をするときというのは、必ず腎機能が低下すると。90％近く低下する場合もあるということを聞いたときに、その手術の大前提、あくまでも武雄市民病院は救急告示病院であります。そういう意味で、これは非常に言い方がきつくなるかもしれませんけれども、そういう意味では手術のインフラが整っていないんではないかというふうにも思った次第であります。

私は透析は透析の苦しまれている患者さんだけだというふうに認識をしていたんですけれども、実はそれは手術のインフラですよということも、これは本を読んでわかりましたけれども、そういった意味からしても、私は救急を支える意味でも、透析は大きく分けて２つあると思いますので、ぜひ選考委員会の皆さんたちがそういったことも考慮に入れて選定をした上で、なおかつ、それは議会の声、市民の声ということで、先ほどの小児科の救急の話もそうですけれども、当該病院にはきちんとこたえてもらう必要があるというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

心強い答弁をいただきましたので、よかったと思います。

武雄市の医療に求められているもの、移譲先に求められているものは、公募条件にもあるように、地域の連携というのが必ずあるわけです。公立病院がなく、民間病院を中心として地域の医療連携を確立されている自治体もあります。鹿島市だって、織田病院とかを中心に医療連携が非常に充実していると伺います。そうするためにも、市長を初め、行政と医師会の関係修復、これについては再三答弁されておりますので、答弁は要りませんけれども、絶対に必要なことであり、避けて通れないものであります。トップ、つまり市長がやるかやらないかにここはかかってくると思います。ぜひ医師会の皆さんと協力して、市民の皆様のためによりよい医療環境を確立していただくことをお願いし、病院についての質問を終わりたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、13時20分まで休憩をいたします。

休　　憩　　11時59分

再　　開　　13時22分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き午後の会議を開きます。

一般質問を続けます。

１番上田議員、質問を続けてください。１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

それでは、武雄市の今後の可能性についての２つ目に入りたいと思います。

新幹線についてであります。去る４月28日、ついに西九州新幹線長崎ルートの起工式が行われました。経緯についてひもとくと、これも一昨日、先輩議員が質問されておりましたので、重複は避けたいものですから要点だけにさせていただきますけど、佐賀、福岡、長崎、３県による九州新幹線建設期成会が結成されたのが、昭和45年４月、まさに私が生まれる前からの話であり、その後、昭和48年、武雄市臨時議会において長崎新幹線誘致問題調査特別委員会が設置されるなど、本格的な動きに入ったようであり、実におよそ40年足らずの間、紆余曲折しながら今日があるわけで、先人たちの残した功績は本当に頭が下がる思いであります。

今現在の率直な市長の感想を聞こうと思っておりましたが、これについても一昨日答弁されておりましたので、そのときの答弁の中に、そのプロジェクトを活用しながらさまざまな方々からの意見を聞きたいとありましたが、そこで小学生も含めてとおっしゃられましたけれども、具体的にどのようにそれについてお考えか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が小学生と申し上げたのは、そのきっかけが楼門朝市に武雄小学校の５年生の諸君に来ていただいて、我々大人の世代であるとか、こういう行政に携わっている人間では思いもつかないようなさまざまなアイデアを出していただいた。小学生というのはやっぱりすごかなと思って、そういう意味で、もちろん学校でありますので、時間的な制約とか内容的な制約はあろうかと思いますけれども、ぜひ、私一つ考えているのは、楼門朝市はそういう朝市という実態がありましたけれども、今回は実態がまだありませんので、何らかの、例えば、ほかのところの新幹線のビデオとかありますよね。それを小学生が見て、それに対して、じゃあ武雄に落とし込んだときにこういうふうにまちづくりをしたいとか、こういうふうに新幹線をしたいということを作文で出していただこうかなというふうに思っています。

それで、その作文を出してもらって、これはちょっと教育委員会ともよく調整する必要が

ありますけれども、僕はそれで賞もつけていいと思うんですね。夢大賞とか、まあよくわかりませんけれども、つけた上できちんとそれをちゃんと褒めてまた出していくというようなこともしていきたいと。要するに新幹線が通るのは10年後であると。そうすると今の小学生の皆さんたち高校生というか社会人になっている子もいるわけですよね。だから、そういう次代を担う子どもたちが本当に自分たちが主人公として乗る前からやっぱりそういうことを言ってほしいなと、そういう夢を描いてほしいなというふうに思っておりますので、作文大会になるか、また新幹線を使った絵になるかというのは、ちょっとそれは考えさせていただきたいと思うんですけれども、そういった形で意見を出すきっかけというか、そういうことをぜひ取り入れていきたいと。プロジェクトの中に小学生を入れてというのはちょっと今そこは考えておりませんけれども、そういう意味で小学生の夢をそこに取り入れていきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

まさに私も実は新幹線を生かしたまちづくり、新幹線に限らずそうなんですけど、武雄市のまちづくりをする上で、やっぱり子どもたちが将来武雄に残って、どういう武雄やったら残りたいというような思い思いを吸い上げるというか、子どもたちの意見というのを参考にするというのは非常にいい方法じゃないかなと私もずうっと思っておって、その方向性が同じということを聞いて安心しました。ぜひ子どもたちからアンケートをとるなり、そういう方法にも取り組んでいただきたいなと思っております。

この新幹線は生かすも殺すも今後のまちづくり次第であって、鹿児島新幹線の例をとってみてもまちづくりへの取り組み次第では、うわさの中に熊本県がストロー化現象に陥るかもしれないというような危機感等々も叫ばれておる今、長崎ルートでも私たちの武雄市というのもそうならないように取り組まなければいけないと物すごい危機感を持っているわけです。となると、やっぱり武雄市の今後の優先順位として新幹線を生かしたまちづくり、それに関することは大変重要になってくると思うわけですけれども、この辺の優先順位的には市長の考えとしてはどのような位置づけになっているか、答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

我々の行政体の中では新幹線という優先順位は非常に高いです。ただ、それをじゃあ順番つけてどうかというのは、ちょっとそれはさまざまやっぱり農業であるとか、市民病院の問題であるとか、次元が余りにも異なり過ぎますので、一緒に並べて１番とか２番とかありませんけれども、数字で言うとこれは優先課題の一つだと認識をしています。

それとちょっと考えなきゃいけないのは、今やっぱり我々が欲しいのは10年というても時間がそんなにあるわけじゃありませんので、まずソフトありきだと思うんです。ソフトとして先ほど申し上げました、例えば、小学生の夢であるとか、希望であるをきちんと吸い上げていくと。いいことをおっしゃいました。自分たちが使う、あるいはここに残るというときに新幹線をどうするかと、そういう知見は私にもあんまりありませんでしたので、そういう思いを入れていただくということ、あるいは我々の大人世代でも今後、高齢化になったときにどういうふうな新幹線がいいかと。だから、それは１つ例えて言うと、ちょっと話ずれるかもしれませんけれども、飛行機で何か、シンガポールから東京に就航した飛行機、物すごく大きな500席ぐらいの飛行機で、スイートクラスと、寝転びながら個室みたいなのがあったんですよね。恐らく今後、新幹線というのも今乗るのが非常に、例えば、苦痛であると。飛行機よりも新幹線が快適なんですけれども、私はあんまり快適には思えないときもやっぱりあります。そういう意味で新幹線の中、シートそのもの、あるいは傾斜そのものも考えて、こういう新幹線だったら乗りたいとか、これからますます高齢化が進みます。あるいはユニバーサルデザインの関係もありますので、まちづくり、そして、こういう新幹線なかですよねというものも含めてぜひ考えていただきたい。

ちょっと質問の趣旨からは大分ずれますけれども、そういった全体のソフトを含めてまず今考えるべき話だろうという。それからそのソフトを踏まえてハードに移し込んでいくと。だから、今、優先順位ということでおっしゃいましたけれども、だんだんソフトからハードに移り変わっていくというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

新幹線の優先順位は極めて高いというような認識を受けたわけですけれども、ちょっと話はそれますが、今の日本の合計特殊出生率、１人の女性が生涯子どもを産まれる数なんですけど、2007年度は1.34であります。これに対して結婚しておられる方は平均しておよそ2.0から2.2人の子どもを産まれているそうでございます。今度ですね、今週20日の金曜日に社団法人武雄青年会議所では、少子化対策として民間でできることは何かということで結婚にクローズアップさせて、「どうなる？どうする？日本の将来？？？～未婚化・晩婚化の急増による将来の日本～」という題目で基調講演が行われます。

実はきのうの話、きのうの先輩議員の質問の中にもありました麻生太郎代議士の講演、私も実はその席におりまして、その講演を聞いたとき、福岡県の飯塚では雇用の確保により今結婚ブームということでありました。部課長さんは立て続く結婚にもう御祝儀貧乏を嘆いておられるほどということを伺いました。これは結局、正規職員になったことで男性にも自信がつき、女性の中でもキャリアウーマンは格好いいというような雰囲気はあるけれども、や

はり女性の気持ちの中には結婚されている女性はうらやましいということから結婚ブームにつながっているというようなことでありました。

武雄市も雇用の確保、つまり企業誘致も市長の優先順位ではかなり高いはずだと思います。それにしては人員削減の余波はあるにせよ、武雄市として今後急激に力を入れていかなければならない新幹線と企業立地、別々の課ではあるものの両方を兼務した方が３名というような今は状態でありますけど、先ほど話がありましたように、ソフト面の充実とか、あらゆる情報を吸い上げていかなければ危機感も多々ある状況の中で、マンパワー的にちょっと大丈夫なのかなという気持ちがあるわけです。これについて市長の考えをお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が好きな四文字熟語があります。少数精鋭。いずれにしても、ソフトのときというのは筋肉よりもむしろ頭脳であります。それとやる気であるんですね。武雄市の職員は皆さんやる気がありますけれども、そういう意味で、まずソフトの部分でいうと、私は今の状態ですごく忙しくしています。これでじゃあ十分かと言われても、ほかの全体のちょっと仕事もありますので、それはバランスがありますけれども、今後ふやしていこうというふうに思っているんです。

先ほどの質問でソフトからハードというふうに申し上げました。今は営業部にわたしたちの新幹線課、そして企業立地課がありますけれども、これは10年後にだんだんまちづくり部に移管をしていこうというふうに思っているんです。それはどういうことかというと、ソフトをしっかり営業部で詰めてもらって、それをきちんと落とした形でのソフト、ハードにしていく。これは人が要ります。やっぱりいろんな制度設計の問題であるとか、技術的にこれは可能かといったときに、そういうふうにだんだん抽象から具体に移していく段階で人がふえていくと、新幹線に関して言えばそのように感じております。

それと、企業誘致に関して言うと、これから、確かに問い合わせはありますけれども、場所がない、土地がない。しかし、今回は県に御努力を願って、昨日の質問にありましたけれども、西宮裾と川上のところに工業団地ができますといったときに、今、県に職員を１人派遣しております。そこがいわゆる出島となって今さまざまないい情報をこれから寄せていただくことも期待をしておりますし、現に今一生懸命頑張っています。そういう意味で私は県とさらに一体性を今後ちょっと強めていこうというふうにも思っておりますし、ばらばら動くんではなくて、それを協調関係で動いていくと。それとうちには大田副市長もいますので、それも十分なマンパワーとして、パーソンパワーとして期待をしております。そういう意味で確かに物理的な人員は今、人員削減、行革でもありますけれども、それは必要に応じて今

後ふやしていくということは考えております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

それでは、新幹線を生かしたまちづくりについて、やはりどうしても市民の皆さんの意見というのは幅広く取り組むべきかと思うわけで、私が知る限りでは、先ほどの武雄青年会議所では３月の例会で新幹線について勉強会並びに意見交換会というのが行われ、またつい先日、９日の月曜日には、武雄商工会議所主催によります新幹線をビジネスチャンスとして生かす会が行われました。今後こういった取り組みというのがもっと活発になればなという期待をしておるわけですけれども、武雄市でも、先日、５月29日に武雄市新幹線活用プロジェクトが発足いたしましたけれども、今後これをどのような形に持っていくのかを伺いたいと思います。

そのプロジェクトについてですが、一般公募により会員の募集をされたかと思うんですけど、その活用プロジェクトの会員に何名の応募があっているのか、これについて御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田営業部長

○前田営業部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

まず、５月29日に立ち上げました武雄市新幹線活用プロジェクトの今後でございますが、一昨日申し上げましたとおり、幹事会を６月の末か、７月の上旬には開催をしたいということで、これについてはいろんな各分野のほうから幹事の方の推薦を今お願いしております。そういうことで、どういうふうに持っていくかということにつきましては、１回目の幹事会の中でそこの意見を出してもらって、今後の方向性については決めていきたいというふうに考えています。

それから、もう１点の会員の公募の関係でございますが、今現在８名の方が応募をされております。そのうちに市内の方が２名で、市外が６名ということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほど答弁がありましたように、８名いらっしゃって２名の方が市内の方、６名の方が市外の方。武雄市の今後の発展を考える上ではやっぱり市内の方の数にはちょっと寂しいのかなというのがあります。実のところ私の周りにも、その活用プロジェクト自体がこれから立ち上げてやっていこうという組織であって内容はこれからということなのかもわかりません

けれども、公募をする上で明らかにやっぱり情報提供の不足じゃないかなと思うわけですよ。どのような募集を行ったかと。どのようなというか、この場合、募集の方法ではなくて募集する際にどれだけの情報を示したかということなんですけど、市民の皆さんの中に、そのプロジェクト自体に物すごく興味があると。あるけど、平日の昼間に会議があるのか、それとも夜あるのか、土日あるのか、どんな内容を協議するのか、またその中でどれぐらいの頻度で行われるのか、余りにもわからないだらけでちょっと今後のまちづくりを考える上では、本当に自分ができるかどうかわからんのに応募をちょっとなかなかしにくかったという意見がありました。市民の皆さんの声の中にそういうことが出ていること自体が、やっぱり非常にもったいないことじゃないかなと思うわけですけど、今後その辺についてはどのような方向性でやっていかれるおつもりか、御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かにそのとおりですね。私も公募しとったて知らんやったです。もうそれは私も痛切に実は反省しています。けさは回ってきましたけれども、私の目にやっぱり触れないということは情報発信の不足を指摘されても、それは仕方がないというふうに深く反省をしています。

そこで、今御意見、御質問を承りながら考えたのは、今後、順次会員をまたふやしていこうと。要するに入りたいという人たちが私のところにメールで来たりとかやっぱりしていますので、そういった方は順次もう出入り自由、ふやしていく。２次会員、３次会員、４次会員、50次会員というふうにどんどんふやしていくと。

それともう１つが、やっぱりもう１個、指摘として昼間は無理ですよというのは、今私が注目しているブログで武雄市民物語、私は武雄市長物語ですけれども、そういったブログがあって、その書いておられる方が実は自分も参加したいけれども、やっぱり仕事を抱えているんで昼間は無理ですということを書かれておりましたので、これは多くの皆さんたちも同じ御意見だと思います。

したがって、昼やったり夜やったりさまざまやっていけば、全員がそろわなきゃできないではなくて、それこそやっぱり皆さんいろんなのを抱えておられますので、できる限り開催をふやしていって、どんどんそこで知恵出しをしていただこうというふうに思っています。そういう意味では、もうアメーバのようにどんどんどんどん広がっていくことを期待していて、それがニュースになればまた多分人がやってくると思います。そういう仕掛けを今後していきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

武雄市のまちづくりにおいて具体的に今、妙案を見つけ出さなければ、もう明らかに嬉野に先を越されるという危機感を持っておりますので、市民の皆さんが一体となってよりよいまちづくりを行うべく、産官学が知恵を出し合う機会にその活用プロジェクト自体がなってくれればなという期待をしております。

続いてスポーツの可能性についてですけれども、フットサル宣言を行ったおかげで市民の皆様の中には愛好者同士でチームとして発足したり、職場のチームとして発足したりと各活発な動きが見えてきているわけでございます。このたび、フットサルの県リーグ１部の会場が武雄地区で行われるということを伺っておりますけれども、施設の利用など武雄市としバックアップするべきではないかと思うわけですけど、その関係者の方のお話の中に、いまいちやっぱり協力的なところとそうでないところと、何かその辺のバランスが非常にあるというように聞いています。聞くところによると、なかなかラインにしろ、ボールにしろ、ちょっと工夫すれば協力してもらえそうなんだけど、実際なかなかそうでない部分もあると。これについてどのように市長は認識されているかを聞きたい。いろいろとね、各関係の諸団体の方々との調整などがうまくいっていないのかどうなのか、そこのあたり御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

フットサルにつきましては、昨年度の５月、フットサルリーグとして開幕しました。フットサル宣言をいたしたところでございます。その後、文化学習課内、あるいは各町から出ておられます体育指導員さん方の研修会等をいたしまして、あるいはファミリーでのフットサルというのも盛んに行われておりましたので、そういう視察等も行いました。普及が進められる体制をずっととってきたというところでございます。

それから、特に保育園とか幼稚園の御協力もいただきまして、クリニック、いわば教室、フットサル教室みたいなものですが、展開をしてきたところでございます。

庁内での普及検討部会、これを立ち上げておりますし、また５月からは市内の保育園、幼稚園、小学校代表、そしてもちろん、市のサッカー協会、フットサルリーグの代表の方、入っていただきました。市役所のほうからも加わりまして、普及委員会というのを立ち上げて進めてきているというところでございます。

また、後で触れたいとも思いますが、今年度５月には中山鉄工所さんのほうのコートのこけら落としにお招きいただきましたけれども、そういうことで、いろんな面で支援をいただいて進めてきているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

フットサルにつきましては、先ほど教育長から今までの取り組みを御答弁申し上げましたけれども、２つちょっと今問題があるなと認識をしております。１つは場所の問題です。もう１つが、ほかのスポーツをされている皆さんたちとのちょっと兼ね合い関係もあって、なかなかそれがまだ融和と融合にいっていないのかなというふうにあります。そういう意味では、先ほど教育長が御答弁申し上げたとおり、普及委員会ができましたので、そこで水平なレベルでのほかのスポーツ団体との調整もそこで担っていただくと。

それともう１つがやっぱり大きいのは中山鉄工所です。朝日の中山鉄工所のこけら落としにも私は教育長とともに参りましたけれども、非常にいいフットサル場ができています。これはテニス併用にもなっています。そういう意味ではそういった民間の企業が、しかも、ナイターの施設もあります。それとクラブハウスもあって、中山鉄工所の中山弘志社長は時期をまだ申し上げられないとおっしゃいましたけれども、今後天井もつけていいということもおっしゃっていますので、中山鉄工所のフットサル場が一つの大きな起爆剤となって、それが今幾つかやっぱり自分のところもやりたいという話も来ています。ただ、それはちょっと土地の問題等がありますので、なかなかそれが進むかどうかは別にしても、そういう場をきちんと確保していかなければいけないというふうに思っております。

そういう意味で、何も我々はフットサルだけしゃにむに力を入れるんじゃなくて、これは気軽な市民の生涯スポーツの一つとして私たちも取り組んでまいりたいと思いますし、これによってほかのスポーツもいろんな元気がまた出てくればありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

その普及委員会ですね、どのようなメンバーになっておるかわかりませんけれども、フットサル宣言時に非常に御協力いただいたサガン鳥栖さんとかというのももちろん入っておられるのかなと、その辺の詳しいことはちょっと私もわかりませんけれども、ぜひそのあたり、フットサル宣言時にお世話になった方々も皆さん交えて普及委員会をまとめていっていただいて、地域連携の一つになるようにしていただければと思っております。

それでは、最後の質問に移りたいと思いますが、ＰＲについて、ちょっと幾つかお願いをしたいと思います。

情報提供ということで有効な手段の一つにホームページがあると思います。これまでの質問でも毎度毎度行ってまいりました。武雄市のホームページ、およそ1,000万円という予算をかけて、もちろん中身を充実させないと意味がないわけであります。もちろん、今のホームページを否定するわけでもなく、今よりさらに充実させる必要があるのではないかと思っ

ております。

民間の情報のＰＲなども含めて広く掲載するべきではないか。例えば、市内で行われているすべてのイベントなり、いろいろな情報をカレンダーのようにスケジュールとして、きょうは何がある、あしたは何があるというように毎日チェックすることができれば自然とアクセス数も伸びるんではないかなと思うわけですけれども、これも通告を出したときにはちょっとなかったんですけど、ゆうべ確認したところ、もう早速、対応をしていただいておりましたので、それについては、はい、市長室から見える風景が本日の行事とかというふうに変わっていて、ケース・バイ・ケースでそこはずうっといろいろ変えていっていただけるのかなというような感じがしております。

これについて、私もいろんなホームページを見て、どこかいいところを取り込むべきじゃないかなと思っとったんですけど、千葉県の船橋市なんか非常にいいわけです。船橋となると人口規模が大きくて、およそ59万人というようなところですから同じようにはできるもんかと言われそうでしたので、探しよったら九州管内では人口規模３万にも届かないようなところでしたけど、例えば、大分県の竹田市とか、宮崎県の串間市なども非常にいい感じでありました。イベント一つとっても、例えばですけど、楼門朝市はバナーのところに張ってありますね。それ以外の地域の祭りとかでも、例えば、うめ～ランドとか、それとか川端通りにこの前、三輪車レースとかケーブルワンのほうでも放映されとったですけど、そういった祭りも全部もうそこにどんどんＰＲしていって、武雄市のホームページから基点で各情報に飛ぶというような仕組みをぜひしていただきたいなと思うわけですよ。

企画課のほうから具約の進捗状況報告書というのが先月出されたわけですけど、その際には、私が確認したのはきのうでしたけど、通告を出す前には対応していなかったんですけど、その時点で具約の５番の情報公開とホームページを全国有数にということで上げられておりますけれども、その企画課の採点では５点満点中４点と高得点になっておりましたので、それについて具体的根拠はどういうところなのか、ちょっと疑問があったもんですから御答弁願います。

○議長（杉原豊喜君）

角企画部長

○角企画部長〔登壇〕

各課で具約については進捗状況を取りまとめていて点数をつけております。多分、情報関係についてはかなり更新をして見やすくしたということで、４点という評価だったというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

評価される人間が答えるのもいかがかと思うんですが、基本的に私は５点中４点じゃ、ちょっと甘いなと思っています。と申し上げますのも、私が最初、市長に着任したときのホームページのアクセス数が１日大体304から308でございました。今多いときで1,200あって、大体の平均が800から900、そういった意味で、アベレージで言うと３倍ぐらいふえているんですね。ただ、これは効果からすると、ちょっとまだ自分の思った到達点よりはやっぱり低いのかなというふうに思っておりますので、それは担当の採点は４かもしれませんけど、私はまだ2.8から３ぐらいかなというふうに思っております。

私がこれからちょっと考えたいのは、先ほど本当に鋭い御指摘があってなるほどなと思ったんですけれども、この前の川端通りの三輪車の話がホームページに載っていなかったんですね。ちょっとこれでお願いがあるのは、今私もそうですし、上田議員もそうだと思うんですけど、何か行こうと思ったときは検索で多分行くと思うんですよね、グーグルとかヤフーの。いきなり市のホームページを見てじゃなくて、検索で多分行くと思う。そのときにぜひ実行される方は日付、場所だけでもいいんで、ブログ、あるいはホームページでも１個書いといていただければありがたいというのと、ぜひそれを市役所に載せてくれと。要は私のブログよりは市のホームページのほうが公でありますので、こっちのほうが検索でひっかかるのが高くなるんですね。私のほうがアクセスはありますけれども、こっちのほうがより公だと。私は民間のを使っていますので、そういった意味でこちらに載せておくと。それともう１つ、民間のどなたかのに載せていくとダブルで検索にひっかかりやすくなるといったこと。

ただ、市もいろんな行事とかというのは全部がわかるわけでありませんので、ぜひこれは載せてほしいということで我々はそれで一定の基準をつくりたいと思います。それで、オーケーなものは広く載せていきたいというふうに思っておりますので、ぜひそういったことで御協力を、それこそが市民協働の情報発信の一つのあり方だというふうに私は思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

まさにそのとおりだと思います。

それ以外にも以前にも私のほう提案させていただいておりましたけど、ヤフーとか、そういう検索でひっかかるスポーツというカテゴリー、最初にひっかかりやすくするように市内の今ある施設を積極的にページをつくって、そこにリンクしてというようなことをぜひやってほしいということを毎度言っておりますけど、なかなかまだそこまでは至っておりません。これについても先進地では先ほど紹介した船橋、竹田市等はもちろんですけど、愛知県の一宮市とか、大分県の別府市など、施設の管理予約システムというのがもう配備されているのは御存じだと思います。加入者がインターネットで施設の空き状況を確認し、予約できるシ

ステムが構築されているわけです。

宮崎県の先ほど言いました串間市では、スポーツイベントの項目でキャンプ情報として、例えば、７月21日から24日まで神村学園女子サッカー部が合宿をどこで泊まってしますと。８月11日から12日まで筑紫高校サッカー部80名がどこで泊まって市内のどこで合宿をしますという、そういうスケジュールまで載っておるわけですね。

実は、武雄市でも先日、ゴールデンウイークに白岩球場に福岡県の少年野球チームが１泊２日で合宿に来られたわけですよ。地元のチームと練習試合を行いたいということで、私の子どもが所属しています野球団で練習試合をさせてもらって、そのおかげでチームの関係者の方々とお話しすることができたわけですよ。そしたら、少年野球の試合でこんな球場でできること自体、幸せですねと。やっぱり少年野球ですからね。そして、お相手していただいて恐縮ですというようなこともちろんあったんですけど、白岩球場に限って言えばプロとか高校野球が使用する硬式ボールの野球には適していないわけですけど、少年野球とか中学校の野球というのを行う上ではある意味申し分ない球場なんですね。やっぱりある自治体では地域の少年団を紹介して練習試合とかそういったのも直接問い合わせできるようになっているホームページもあるんですよ。だから、施設の写真、もう来てみてびっくりと。これがよかことやっけんよかったですけど、来てみて、あら何ここというような雰囲気じゃ、ちょっといかんわけで、そういった意味でも施設の写真とか地図を載せて、さらにはこういう競技には適していますというような詳細を記載して、市内の方、市外の方どちらの方にもわかりやすく親切なものであれば、そういった合宿なども武雄で取り組めるわけでございます。

ただ、これも関係課とか団体とか調整がやっぱりなかなかとれないのかなというのがちょっと気になるところがあるんですけど、そこら辺ちょっと御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

確かに、このホームページにつきましては、利用される方々の有用性、そういったものを念頭に置きながらする分は当然だというふうな認識には立っております。そういう中で、現在、市役所の中に広報検討委員会を設置しておりまして、市報、ホームページ、市役所だより、こういった情報発信について議論をしながら、今おっしゃるような市民の利便性の向上のためにどういった情報発信がいいのか、ホームページの作成がいいのかというのを検討していきたいというふうに思っていますし、また、関係機関、特に観光協会とか商工会議所、ここらとも庁内の検討委員会と、あと関係機関と調整できるように今後進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ前向きによろしくお願いいたします。

市民の皆さんのブログの中で、先ほど市長が申し上げられましたけど、武雄市民物語、この辺も、このブログにもさまざまな市のホームページの活用アイデアとか物すごく載せてあるわけです。私も個人的に毎日そのブログも拝見しておるわけですけど、そういった中で、皆さんの意見を参考にしながら、これはゆうべ確認したところもう実施されておりましたけど、例えば、ケーブルワンなんかで流されておる文化会館である行事、イベントの紹介であったりとか、その辺はゆうべまたそこの手直しされて実現されて、もう対応していただいておったわけですけれども、そういったのもどんどんどんどんいい方向いい方向に向かうように、今後ますますホームページの充実に取り組んでいただくこと、情報発信に努めてもらうことをお願いし、私の一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。